



国際会長 (IP) K.C.Samuel (India)

“Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT”

「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」

アジア太平洋地域会長 (AP) Chen Ming Chen (Taiwan)

“Elegantly Change with New Era”

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事 (RD) 佐藤 重良 (甲府21)

“Let's act now for the future”

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

湘南・沖縄部部长 (DG) 小松 仲史 (厚木)

「楽しく・元気よく・前向きに」 副題: 入りたくなるワイズにしよう

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「他者と共に生きる ~ 平和を求めて」

“Live together in harmony ~ for Peace”

会長 古賀 健一郎
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 青木 英幸

<今月の聖句>

松島 美一

いかに幸いなことか 神に逆らう者の計らいに従って歩まず 罪ある者の道にとどまらず 傲慢な者と共に座らず 主の教えを愛し その教えを昼も夜も口ずさむ人。

(詩編1章1-2節)

今月のひとこと

『アプリ』

伊藤 誠彦



スマホを触っているとしきりに「アプリ」という言葉に出くわす。50数年前、コンピューターを活用したシステム開発に携わっていた筆者にとっては「アプリケーション」(当時は「アプリ」という言葉は無かった)は懐かしい言葉である。「アプリケーション」は「適用業務」と訳されるが、コンピューター処理の適用対象となる業務という意味である。

当時、筆者が携わっていた銀行の営業店システムの例で言

と、コンピューター処理の対象になる営業店での事務処理

手順を分析し、プログラミング言語を活用して、忠実にコンピューター上にそれを実現する。それなりに難しい作業ではあるが、単に手作業をコンピューター処理に置き換えただけで、コンピューターが持っている正確・迅速な処理、膨大なデータ管理・処理能力をどのように生かし、いかに経営に役立つシステムを構築すべきなのか、アプリケーションに関する考察が無いという。コンピューター基盤の情報システムを構築するに際してもシステム設計技術よりもアプリケーションに関する見識を持つことがより重要とされたものである。

さて、アプリであるがアプリには実に様々なものがある。ユーザー同士で情報発信や情報共有ができる SNS 系アプリ、地図上にユーザーの現在地を表示させる地図アプリ、ゲーム系アプリ、業務の効率化やコスト削減を手助けしてくれる業務系アプリなど・・・しかし、ここで問題にしたいのは業務系アプリの一つである EC アプリである。EC とは電子商取引と訳され、サイバースペース (コンピューターネットワーク) 上でモノやサービスを売買することである。サイ

<2022年9月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 7名 メネット 1名 コメット 0名 ビジター 4名 ゲスト 1名 合計 13名	67 % (メーキャ ップ1名を 含む) 前月修正出 席率 %	今月分 切手 0 g 現金 0 円 年度累計 切手 0 g 現金 0 円

<10月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
13	木	15:00	横浜クラブ第一例会	中央Y
15	木	8:00	チャリティーラン	臨港パーク
17-31			チャリティーラン	オンライン
22	土	15:00	湘南・沖縄部大会	
27	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
29	土		次期部長・主任研修会	

バースペース上で行う商取引には自社独自のECサイトから、Amazonや楽天市場などのショッピングモールへの出店まで多岐に渡るビジネスモデルが存在する。

実店舗が中心だった日用品や食品もECサイトでの購入が増え、日常生活に着実に溶け込んでいる。一方では偽サイトからクレジットカード情報を抜き取るフィッシングや、企業へのサイバー攻撃による情報漏洩などの被害が増加しているという。海外の犯罪者集団の関与が疑われる場合もあるという。日本クレジット協会によるとカード不正利用の被害額はNHKで毎日のように注意喚起している特殊詐欺の被害額を上回るという。

奇しくも当ブリテン10月号の原稿締切日の10月3日の日経新聞一面のトップ記事に「国内インフラ877カ所に穴」(サイバーカオス 経済安保の死角)と題して、水道や電力など自治体が運営する社会インフラがインターネットに直接繋がって遠隔操作できる形になっているものもあり、サイバー攻撃により遠隔操作されるリスクに晒されていると言う。水道の薬品濃度の変更など人命に直接関わる操作もできる可能性があるという。もはや金銭の被害だけではない。

確かに、ECアプリや遠隔操作できる社会システムは便利である。しかし、光あるところには影もある。我々ユーザーも対象となっているアプリケーションが本質的に持っているリスクを認識した上で活用すべきと考える。

<9月第一例会報告>

古田 和彦

日時：9月8日(木) 18:30~20:00

開催方法：中央YMCAとZoomによるハイブリッド開催

出席者：横浜<会場>青木、秋元、大高、古賀、佐竹、古田
<Zoom>伊藤、マ、

ビジター<会場>小松伸史部長(厚木)、<Zoom>
>日下部美幸(鎌倉)、佐藤節子(厚木)、辻剛
(横浜つづき) ゲスト<Zoom>瀬谷智明

古田ワイズの司会で開始。古賀会長により開会点鐘と挨拶、ワイズソングは省略し、ワイズの信条を唱和する。今月の聖句は古田ワイズから「あなた方も聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、私は言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。」(マタイ

による福音書5:38-39)が読まれ、報復では平和の実現はないとのコメントがあり、祈りがささげられた。

今月は小松伸史湘南・沖縄部長による公式訪問があった。小松部長から、「楽しく・元気よく・前向きに」取り組み、「入りたくなるワイズにしよう。」との今期部長方針に基づき挨拶があった。

続いて卓話。「横浜YMCAと横浜ワイズメンズクラブのさらなる連携強化を目指して」シリーズ最終回として、総主事の佐竹博ワイズによる「横浜YMCAとともに歩んでいただくために」と題するものであった。

内容は、1. YMCAについて。世界、横浜のYMCAの現勢に続き、横浜YMCAの5つの使命を丁寧に説明、加えて、創立150年に向けた将来計画「VISION2034」の説明があった。

「VISION2034」は、横浜YMCAは創立以来それぞれの時代で起きる社会課題に向き合い、課題解決のために多くの方々と共に祈り、取り組んできたが、私たちの使命に示された平和な社会をつくり出すためには、まだ達成できていない課題が存在することに気づき、そうした未達成課題を整理し、「横浜YMCA 私たちの使命」の具現化に取り組むものである。

具体的には①FOR HEALTHY LIVING(一人ひとりの多様性を認め合い、すべての人の調和のとれた成長が促され「Quality of Life」を向上させる働き)、②FOR YOUTH DEVELOPMENT(ユース<若者>が自らの能力を最大限発揮し、よりよい地球社会・自然環境を目指した活動を推進できるようユースの育成に努める)、③FOR SOCIAL RESPONSIBILITY(調和のとれた持続可能な社会を実現するために地域や世界のYMCAとつながりSDGsへの取り組みを強める)と説明した。

2. ワイズメンズクラブについて。ワイズメンは理想主義者であること、YMCAに尽くすことが入会式の式文にある。また、YMCAとワイズメンズクラブはイコールパートナーシップのもと共通の目的達成に努めることが「協力関係の原則」に掲げられている。

3. これからの協働のために。歴代ワイズ部長の方針、また、YMCA結成の基準(パリ基準)に掲げられている根本原則をしっかりと受け継ぎ、イコールパートナーとしてともに力を合わせていきましょう、と述べられた。



ビジネスでは10/15チャリティーランのボランティアは各クラブ2名となったので古賀・古田ワイズとすること、ブリテン10月号の編集計画が承認された。

ハッピー・バースデーは該当者なし、20時、古賀会長の点鐘で閉会した。

「第95回 YMCA-Ys協議会報告」

古田 和彦

9月6日(火)19:00~20:30、第95回Y-Ys協議会がZoomによるオンライン会議で開催された。参加者は20名ほどと思われる。今回の担当は、金沢八景クラブが担当した。開会礼拝では宮崎亮担当主事が、聖書フィリピの信徒への手紙2章12節を朗読、祈禱をささげた。次いで、同クラブの山田一男会長が司会・進行した。

まず、佐竹横浜YMCA総主事から挨拶。コロナの中ではあるが、今年、キャンプを行う事が出来たこと、留学生も戻りつつあるとの報告があった。都合により遅れて参加となった、小松伸史部長からは、ワイズの第1の使命はYMCAを支えることであり、そのためにこの協議会は重要な会である旨挨拶があった。

次いで協議に入った。議題は一つだけ1.第25回横浜インターナショナルチャリティーランについて。担当の瀬戸主事から説明。概要次の通り。オンライン、リアル両面で行う。リアルは、10/15(土)臨港パークで行う。ワイズ各クラブには2名のボランティアをお願いしたい、役割は後刻提示する。半日開催、弁当なしとする。オンラインは昨年同様自己申告してもらう。この内容について了承し、ワイズ各クラブは9/30までにボランティア2名の氏名を提出することとした。

続いて報告。YMCAから、①8/5-7開催のエイズ文化フォーラムについて。②9/30-10/2開催のユースボランティアリーダーズフォーラム(YVLF)に横浜YMCAから14人のリーダーが参加すること。③9/23(金・休)横浜YMCAフェスター私たち会員の集いが、湘南とつかYMCAで、リアルで、また、オンラインで開催、ぜひ参加してほしい、と報告・依頼があった。

ワイズからは、7/23に今年度第1回部評議会が開催され、10/22部大会の開催を決定したこと、次年度の次期部長として横浜つるみクラブの久保勝昭ワイズを選任したことなどが報告された。横浜クラブ古賀会長からは、9/8の例会は、当クラブが継続して取り組んでいる「横浜YMCAと横浜ワイズのさらなる連携強化の模索」の総まとめとして、佐竹総主事に卓話をしてもらうので他のクラブの皆さんも参加してほしい旨アピールした。

次回96回は2022年12月6日(火)19:00~20:30会場は横浜中央YMCA、担当は横浜つづきワイズメン&ウイメンズクラブの担当で開催することとし、散会した。

横浜クラブ参加者：青木、古賀、佐竹、古田

『第9回横浜YMCAの専門学校 日本語スピーチコンテスト報告』

古賀 健一郎

依然コロナ感染状況の影響下において、スピーチコンテスト出場者、審査員などの関係者は横浜中央YMCAチャペルにて、一般の方々はZoomでのオンラインにて、9月2日(金)10時より、第9回横浜YMCA専門学校日本語スピーチコンテストが開催された。

厚木YMCAの日本語学科の竹山桜子さんの司会のもと、先ず挨拶に立った横浜クラブ会長の古賀が「コロナの状況下

において、外国人留学生の方々が生活面で苦勞されていると聞く。そうした環境下において、スピーチコンテスト挑戦への心意気とコンテスト出場までのたゆまぬ努力を尊敬の念をもって高く評価したい。横浜カレッジグループは、コロナ禍においても約10か国の、百名近くの留学生が集まっている。皆が温かい交流を通して、一つに連帯し合った『大きな絆』が生まれた時、『地球市民』として『共に生きる社会』が創造できると思う。」と述べた。

次に横浜YMCA佐竹総主事が「横浜YMCAには『私たちの使命』というミッションステートメントがある。最大の目標は人間性が尊ばれ、公正で平和な地球社会をつくりだし実現を目指すことにある。横浜YMCAの専門学校は①多文化共生、②ボランティア、③生命の大切さ、④差別やいじめのない、⑤国際交流.....の5つの要素を活動に取り入れ実践している。このような青年たちの発表の機会を設けていただき、審査などのご協力をいただくワイズメンズの方々、また、審査、協賛、協力...等、多くの企業、団体、個人の皆様のご支援を賜り、このような会が実現できたことに心より感謝したい」と挨拶された。

続いて、審査員5名の紹介。恵泉女学園大学の秋元美晴名誉教授(審査委員長)、厚木クラブの佐藤節子会長、神奈川県青年国際交流機構の金澤浩副会長、YCJサポーターの植杉国洋さん、横浜クラブ会長の古賀の5名である。出場者は、横浜YMCA学院専門学校、厚木YMCA健康福祉専門学校日本語科、川崎のYMCA国際ビジネス専門学校に、招待参加としてYMCA東京日本語学校からの1名を加えた8つの国・地域(ベトナム、中国、台湾、フィリピン、インド、モンゴル、ミャンマー、香港)の9名の留学生の方々であった。



《9名の留学生の日本語スピーチから.....》

最優秀賞はフィリピンからの留学生、Yabut Brian Kenneth Martinさんで『奇跡のように』と題して語った。「フィリピンで大家族の中で育ってきたが、幼い頃から日本で仕事する母と離れ離れの生活であった。日本の歌・料理も上手な母によって日本に関心も深まり、留学生として来日し、今、母と一緒に日本で暮らすことはまるで奇跡のようだ。次は新しい奇跡を起こして母にお返ししたい(しっかり働いて収入を得ながら...)」とのはっきりした日本語でのスピーチは、彼のお母さんへの優しさが伝わって来た。

優秀賞は香港からの留学生、盧穎瑶さんで『大吉』と題して.....。「日本の文化が好きで以前から日本に住みたいと思っていた。来日半年足らずだが、日本に行ったらやってみたくて思っていた『川越氷川神社の鯛みくじ』に挑戦した。やっとの思いで釣り上げた鯛みくじは『大吉』だった。努力

した結果は必ずあらわれる。たとえ目標を達成（大吉）しても、また次の目標を見つけ、家族や友達、恋人…まわりの応援に感謝の気持ちをもって、またその上に努力すればするほど成功に近づいていく。『大吉』は自分の力で手に入れるものです。」ときっぱり言い、日本文化に触れながら彼女の想いを伝えた。

《閉会式》

全体講評において、審査員長の恵泉女学園大学の秋元名誉教授が「皆様、それぞれのスピーチが素晴らしく、夢とか将来のこと、子どもの頃のこと、故郷のこと…等、さまざまなテーマがあり面白かったです。対面式で皆様のスピーチをそばで聴かせていただき、また素敵なお国の民族衣装でスピーチされた方も何人かおられ、大変楽しかったです。全体の印象としては、出場者の皆様が、短期間で、よくここまで日本語が上達されたと感心します。指導していただいた先生の方々にも感謝申し上げます。いつか日本とご自分の国の架け橋、いや世界の架け橋になって働いていただければと願います。今日の日本語スピーチコンテストが皆様の良き思い出となりますように、そして今後の皆様のご活躍を楽しみにしております。」

最後に、厚木クラブの佐藤会長の閉会の辞をもって、会を閉じた。

留学生の皆様が日頃考えていることや、夢、文化の違い、母国の話、家族のこと…等のテーマで日本語を使ってしっかり語りました。さまざまな国籍の留学生の方々との交流を通して『世界はひとつ』との想いをもって、必ずや皆で『平和な世界の実現』へとつなげていきたい。

横浜クラブ参加者：青木、秋元、大高、古賀、佐竹、古田

『横浜 YMCA フェスタ～私たち会員の集い～報告』

古賀 健一郎

9月23日(金・休日)、新型コロナウイルスの影響から対面参加者は湘南とつかを会場とし、オンラインのハイブリッド形式で開催された。

2019年度までビーチボールでバレーボールを行っていたが、この2年間、コロナ禍の影響もあって実施できなかった。会員がYMCAを知り、交わり、楽しめる新たなプログラムを企画した。2月の会員大会～ピースフォーラム～は、平和の学び・研修の日、9月のYMCAフェスタは、維持会員の交流を目的とした。新たな名称は、『横浜 YMCA フェスタ～私たち会員の集い』とし、会員が主体的にYMCAに関わり交流し、会員の満足につなげ、維持会員の増強にもつなげたい。

【司会】

会員事業委員 岡 進さん & 金石 万希さん

【開会礼拝】 (9:30-9:45)

(1) 聖書 2022年度横浜YMCA基本聖句『ホセア書10章12節』

「恵みの業をもたらす種を蒔け 愛の実りを刈り入れよ。新しい土地を耕せ」

★横浜YMCA常議員会議長 鈴木 茂さんにお祈りいただいた。

(2) 続いて、横浜YMCA会員事業委員会委員長の古賀健一郎が、「会員事業委員会は、横浜YMCAが大好き

で、維持会員の方々がどうにかして交流できないか、YMCAの事をもっと知って、仲間と楽しい時間を過ごせないかを考え続け、新たに『横浜 YMCA フェスタ～私たち会員の集い～』の開催を決めた。

今回は「共生社会を目指して」との主題を掲げ、困難なことがあっても自立や就労をし、社会の一員になっていくことを目指すオルタナティブ事業と、国際・国内支援、ウクライナ支援活動に焦点を当てたプログラムとした。ワイワイトークタイムでは、皆様で交流の時としたい。……」と挨拶した。

(追記)



会員事業委員会において、今年度はコロナ禍でもあり交流も制限されたが、次年度以降は、新型コロナウイルス感染状況をみながら、三浦YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジも活用し

ながら、多くの方が会場参加して交流ができる『フェスタ（イメージとしては学園祭のように参加者が自由に各ブースを回遊する）』計画も検討したいと考えている。

【プログラム】

(1) 《見たい！知りたい！聴いてみたい！シンポジウム》
(9:50-10:20)

～アンジュのパンの裏側～オルタナティブ事業～

★YMCAの事業の一つであるオルタナティブ事業を取り上げ、担当者、当事者、リーダーからアンジュのパンの裏側の活動内容を聴いた。

・おいしいパンを作っている「アンジュ」は一人ひとりの個性を大切にしながら、「社会参加」「自立」に向け共に歩んでいる。

(2) 《新聞エコバッグ作りに挑戦》 (10:20-10:40)

★環境にも配慮して、利用者の方が作っている新聞紙でできるエコバッグを作った。



(3) 《みんなで健康体操！》(10:40-10:50)

(4) 《交流 ワクワクトークタイム》 (10:50-11:20)

～YMCAとわたしたち～YMCAでやりたいこと、やれること～

・オルタナティブ事業の話聞いた感想や、自分がYMCA Aでできること、やりたいことなどを話し合った。

・共通の関心を持っている方との出会いから、新しい一歩

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

を踏み出すきっかけになる場でもあった。

(5) 《見たい！知りたい！聴いてみたい！》 (11:20-11:45)

国際・国内支援プログラムの紹介

① YMCAが行っているタイやミャンマーの報告。

・自分ができる「国際貢献」が見つかったかもしれない。

② ウクライナ支援の現状について報告

(5ヶ月前、いとこと叔母と一緒に、ウクライナから避難されて日本にいられたボドス・アリナさん(21歳)に、対面でお話を伺った)

★★ (ボドス・アリナ Khodos Alina さんの横顔)

・ウクライナの大学で観光を勉強し、YMCAで日本語も勉強している。新しい人に会ったり、音楽を聴いたり、友達と出かけるのが好きだそうです。

★日本の印象―「親切で素晴らしい人々と美しい自然をもつ素敵な国だと感じる。日本の年配の方は、学生という学ぶ立場でなくなっても、スポーツをしたり、語学を学んだり、外での活動的行動…など新しい経験する年配の方が多くことに驚いた。」

★ウクライナ状況―「ウクライナの厳しい状況は、家族や友人から聞けるが、出来るだけその話題には触れないようにしている。テレビで知ることはない。インスタグラムやテレグラムなどソーシャルメディアを使って現地のことを気にかけている。」

★私たちにとってどんな支援ができるか?―「日本政府のウクライナへの支援に感謝している。私たちの個人レベルでは、ウクライナで学び取得した資格が日本で生かされないか。専門分野で日本語の習得が必要となる。“私たちも日本で役に立ちたい”との気持ちがある。文化的な面、言語的な面で乗り越える問題はありますが・・・」

★日本人に伝えたいこと―「ウクライナはロシアと同じ国でないことを知ってもらいたい。私たちの伝統と言語、歴史はロシアと異なる。私にとってのウクライナの魅力は自然と伝統です。ピンク色の湖、美しい山、溪谷だったり美しい風景がある。ウクライナ人はオープンマインドで、のんびりしている面がある。将来、ウクライナを訪れてほしい。」

③ 「横浜YMCAの国内、ウクライナを含むさまざまな支援活動を(今日はその一端でしたが)知ることができた。またウクライナの方と互いに理解し合って関係を深めていることもあらためて知った。これからは様々な支援活動が展開されていくと思うが、私たち維持会員も、“共に生きる、分かち合う”との視点で、自分たちができる方法を見つけて貢献していきたい。」(司会者の岡 進さん)

【横浜YMCAの維持会員の活動について】

★会員事業委員 後藤 美紀さんからのアピール

「横浜YMCAは愛と奉仕の精神に基づき、誰もが公平に将来の夢や希望を描ける平和な社会の実現に取り組んでいる。また、YMCAのネットワークを通して、国際地域活動を展開している。そして私たち維持会員は、ボランティア活動への参加、各委員会活動、各種イベントへの参加、そして維持会費の納入を通して横浜YMCAを支えている。維持会員の私たちの活動は多岐にわたる。この後には、10月にはチャリティーランがある。

11月には各YMCAのバザー。12月17日には横浜海岸教

会で横浜YMCAクリスマス礼拝がある。そして、2月には昨年“ピースフォーラム”として開催した会員大会もある。ピンクシャツデーや各YMCAで行っている活動など、ここでは紹介しきれない活動が本当に多くある。これらの活動は毎月届く『横浜YMCAニュース』『横浜青年』や横浜YMCAのホームページでご覧いただける。ぜひ、“明日の笑顔を輝かせる為に”横浜YMCAの活動を皆で支えていきたい。そして、“新しい出会いや皆様の想いを生かせる場所がYMCAにはきっとある”との想いをつなげていきたい。どうぞよろしくお願ひしたい。」と話された。

【閉会礼拝】(11:45-12:00)

佐竹 博 横浜YMCA 総主事は、「コロナ禍のこの3年間、維持会員の皆様のお支えによって、YMCAは何とか活動を続け、多くの青年や大人の方々、地域の方々、また世界の方々とつながり、事業活動が継続されている。今日は会員の皆様の相互のつながりと、YMCAをよく知っていただきたいと事業の紹介もあった。ワークサポートセンターの方々、世の中に出て社会を構成する一人として活躍する為に、日々楽しみながらスキルを身につけようとしている。それを支えるスタッフやボランティアの多くの方に感謝したい。こうした活動を通して、多くの方々が理解を深めていくような活動となることを願っている。また、国際関係の話題についても紹介された。(今日はウクライナ方の話でしたが…) ‘今私たちの近くにいる人たちと相互に理解し合って活動していく、共に生きていくことが大事だ’と感じていただけたらありがたい。ウクライナの皆様とのお付き合いは半年程過ぎたが、ウクライナの方々は私たちの“隣人(となりびと)”になろうと努力されている。私たちもまた、“隣人”になれるように、ますます理解を深め、共に歩いていけたらと思う。」と挨拶された。

★最後に、『横浜YMCA―私たちの使命―』を皆で交読して会を閉じた。

【YMCA マルシェ】(12:00-13:00)

～販売ブースにて～



★共生社会創出を願うマルシェ。美味しく、楽しく、物品購入を通じた交流、『国際貢献』の場でもあった。

・ウクライナの伝統菓子リンツィやお人形・株式会社近澤レース店のウクライナ支援ハンカチ・ミャンマーのフェアトレードコーヒー・タイのパヤオクラフト・アンジュのクッキーなど関連品

私たち維持会員は、それぞれの想いでYMCAに関わっているが、今日の会を通して、『YMCAの活動の奥深さ』にますます気づかされる。この横浜YMCAフェスタは、YMCAの活動をもっと知り、YMCAと一緒に活動していける何かが

見つかるように、一緒に活動する仲間と繋がれるように、そして自分自身も、地域がさらに良くなっていく活動に繋がるようにとの願いが込められている。



【モタンカ人形】ウクライナには、『モタンカ』という、針を使わずに糸を巻き付けて作る伝統的なお守り人形があり、母親や祖母の着てきた服のハギレを使うなど、母から子に受け継がれる。(右上写真はマルシェで買い求めたモタンカ人形)

横浜クラブ参加者：青木、佐竹、古賀

第二例会報告

大高 治

日時：9月22日(木) 16:55~18:30

場所：ハイブリッド方式

主席者：青木、伊藤、大高、古賀、古田

協議・確認・検討事項

1. 行事予定

9月23日(横浜YMCAフェスタ)から11月24日(横浜クラブ第二例会)までの確認。

2. 協議・報告事項

(1) 横浜クラブの例会(10月、11月、12月)

○10月の第一例会：10月13日 9月の日本語スピーチコンテスト参加者4名と視聴者との交流。

15:00~15:20 Business

15:20~16:30 交流会(司会：青木校長)

16:30~ Businessの残り

スピーチコンテストの視聴者には村田の協賛担当安田さんも紹介する。

○11月の第一例会：11月10日

卓話：古田ワイズによる「横浜海岸教会150周年」

この教会の青年たちが中心になって横浜YMCAが誕生した。

1月の卓話を引受けて下さる横浜中央YMCAの広報IT池田直子さんもこの例会に出席予定。

○12月の第一例会：12月8日(木) 横浜中央YMCAの職員との会食・懇談会

「横浜中央YMCAの責任者(日本語教育関係者も含む)の方で、参加出来る方」を招く。

費用負担は別途協議する。

(2) 横浜中央YMCAフェスタ：9月23日(金) 10~12時

参加者：古賀、青木、古田ワイズ

記録：古賀ワイズ

(3) 第25回インターナショナル・チャリティーラン：

10月17日(月)~31日(月)15日間。

・留学生1チームの支援金は10月15日までに支払う。継続性の為「学童支援は外せない」との意見があったが、財政が豊かではないので、留学生支援に力を入れ

るという年度方針によって1チームのみ支援。

○オンライン大会：10月17日(月)~31日(月)15日間。

○リアル大会：10月15日(土) みなとみらい臨港パーク

・湘南・沖縄部の各クラブから2名手伝い；古賀会長、古田副会長の他学生が手伝いに参加。

(4) 横浜中央ウェルカムフェスタでのミニバザー協力(メネットと共に)

・11月23日(水) 値付け作業なく、当日のみの活動

・場所：①横浜中央YMCA1Fロビー、②関内えきちか広場

・役割：ジュースを含む物品販売

(5) ペルーBF代表ご夫妻の来日対応

・湘南・沖縄部が担当する行程行事の詳細は打合せ中。

・11月4日(金)：山梨から八王子へ、八王子で宿泊。

・11月5日(土)；八王子での出迎えから、江ノ島水族館見学同行、横浜YMCA・クラブ例会・親睦会(横浜中華街)、横浜宿泊。

・11月6日(日)：新横浜駅から大阪へのお見送り。

・歓送迎の案内役は英語かスペインが話せる人。

(6) 当クラブの今期の例会計画(厚木クラブ9月号ブリテンに「横浜クラブ紹介」掲載原稿)の確認

追加事項

① 1月の合同新年例会

② 1月の中央YMCA広報ITの池田さんによる「広報に関する卓話」

(1月か3月か当人に選んで頂き、1月で快諾を頂いた。その前に例会参加の希望があり、11月の例会に出席して頂くこと前述の通り)

検討事項：5月のクラブ一泊研修会には入会希望者の参加も考慮。

(7) クラブ会員増強の為の広報活動によるクラブ紹介は、ホームページ、リーフレット等の媒体も活用して、新規会員を増やすべく皆で協力、目標達成に向けて行動していくことを確認。

(8) プリテン10月号編集計画；伊藤ワイズ提案に同意。

(9) その他；予算の支出計画

・9月27日；BAPYに50,000円

・10月15日までにチャリティーラン50,000円

・10月末までにフェスタ15,000円

・ポジティブネットに代わる支援50,000円の予算は後日検討

近況 『横浜海岸教会150年史』発刊を終えて

一記録の大切さ一

古田 和彦



10年来作業してきた『横浜海岸教会150年史』を7月に発刊した。編さん委員長を拝命していた私としては、ともかく、重たかった肩の荷が下りた気分である。7月24日の礼拝後に「150年史出

版感謝会」を開き、執筆者、アドバイザー、編集・印刷業者への感謝、時を同じくして、教会員から始めて150年史の配布を行っている。9月25日の礼拝後には、各執筆者から感想や記述内容の紹介をする会（教会修養会のなかで）を持つことができた。

内容については改めて機会を得て述べたいと思うが、次のような感想を持っている。

「編さん作業を通じていろいろ感慨や反省もあるが、<記録の大切さ>を思わずにはいられない。

私たちの教会の創立の事情が事細かに伝えられているのは、当時の政府によるスパイ活動記録（諜者記録）によるところが大きい。私たちの教会に信徒として3名もの諜者が入っていて、教会内の会議の様子、だれがどのような発言をしたかをしっかりと記録し報告していた。3名とは豊田道二（仁村守三：創立時の執事）、関信三（安藤劉太郎：最初の受洗者9名の一人）、正木護（桃江正吉：創立2回目の受洗者の一人）である。今となっては、彼らの忠実な記録を感謝するばかりである。

時は下って、関東大震災では、家屋や信徒の被災は勿論であるが、教会の記録が灰燼に帰してしまったことも大きな損失である。そのため、残念ながらそのあたりの記述をすることがかなわなかった。次いで、戦争の時代になり、日本の教会は「日本基督教団」に統合された。さらに、戦後、私たちの教会は「教団」を離脱して独立教会に、また、日本キリスト教会への加入まで紆余曲折を重ねた。この時期には、会議の名称等記録のルールが明確でなく、統一的記述が困難であった。

1959年、私たちの教会は新「日本キリスト教会」に加入した。以来、今日まで、小会記録・総会記録に加えて、大会記録、東京中会記録などにより、会議記録、統計（会員・会計）などが整えられている。大変喜ばしい。しかし、残念なことは、出された資料・記録のうち、同じものが多くの部数残っている一方、逆に、一部も残っていないものがある。今回の編さん作業の教訓として、記録は数部（3部でどうか）を必ず保管し、それ以外の残部は処分するルールを確立してはどうかと想う次第である。200年史に備えて。」

以上は教会での本件に関する私の感想であるが、先般『創立90周年記念誌』を編集・出版した当クラブでも同様のことが言えるのではないか。横浜クラブ100年に向けて記録の整備・保管に意を用いていきたいと思うこの頃である。



担当主事 青木 英幸

「障がいのある子どもたちのプログラム参加を支援する」ことを目的とした横浜 YMCA インターナショナル・チャリティーランは25回目を迎えます。今年度は10月15日(土)に実施するリアル大会（会場：臨港パーク）と10月17日(月)～31日(土)の15日間で実施するオンライン大会（ウォーキングで累計歩数を競う）の2つの形式で開催されます。2年ぶりに実施するリアル大会は、小学生コース、幼児コース、スペシャルランコースの3コースで行われ、当日は神奈川県安全赤十字奉仕団とワイズメンズ、専門学校学生がボランティアとして携わります。オンライン大会には、横浜 YMCA 学院専門学校作業療法科、国際情報ビジネス科、日本語学科で協

力し2チームがエントリー出来るように準備を進めています。参加費の一部を募金に充てる「夜景ラン」を企画し、YJC サポーターと専門学校学生、YMCA スタッフで、みなとみらいの夜景を楽しみながらジョギング・ウォーキングを10月27日(木)に実施する予定です。

今年度の「横浜中央 YMCA ウェルカムフェスタ」は、11月23日(水・祝)にミニバザーとして「横浜中央 YMCA1 階ロビー」と「関内えきちか広場（地下鉄関内駅1番出口横）」の2カ所を会場として開催する予定で準備を進めています。抽選会を予定しており、賞品となる献品やご支援いただける団体・企業をご紹介いただければ幸いです。国際・地域協力募金活動の一環として実施いたします「ウェルカムフェスタ」にご協力の程、よろしく願いいたします。

10月例会プログラム

日時：10月13日(木) 15:00～16:30

場所：中央 Y+Zoom

司会：大高ワイズ

1. 開会点鐘・挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・古賀会長
2. ワイズソング・ワイズの信条・・・・・・・・全員
3. 今月の聖句・・・・・・・・・・・・・・・・松島
4. ゲスト・ビジターの紹介・・・・・・・・古賀会長
5. スピーチコンテスト参加者との交流・・・・全員
6. ビジネス・報告・・・・・・・・・・・・・・・・古賀会長
7. Happy Birthday 遠藤喜七

例会報告：齋藤ワイズ

11月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
10	木	18:30	横浜クラブ第一例会	ハイブリッド
23	水		横浜 Y ウェルカムフェスタ(ミニバザー)	中央 Y & 関内えきちか広場
24	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 青木英幸にご連絡下さい。

メール aoki_hideyuki@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080